令和３年度第２回松江市総合教育会議

日時：令和３年 10 月 12 日（火）13：45～　　場所：皆美が丘女子高校

出席者：松江市長　　上定昭仁

松江市教育長　　藤原亮彦

松江市教育委員　塩川寛、原田順子、金津式彦

学校関係者　　（皆美が丘女子高）校長 中村訓子、教頭 横山紀文

教務主任 藤江英昭、総務主任 磯田泰将

進路指導主事 奥村佳弘、生徒指導主事 中田広貴

国際科主任 大谷恵、まつえ学コーディネーター―安達卓生

市長部局　　政策次長 佐目元昭、政策企画課長 井原崇博

政策企画官 今岡広樹、政策係長 本田裕美子

教育委員会事務局　副教育長 寺本恵子、副教育長 成相和広

教育総務課長 玉木一男

皆美が丘女子高校事務長 岸本亮子

教育総務課総務係長 今田浩二

開会

○寺本副教育長

では、御案内しておりました時間になりました。本日、多々納委員については欠席の御連絡をいただいていますので、皆さまお揃いでございます。

改めまして、お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。これより令和３年度第２回松江市総合教育会議を開催します。本日、司会をします副教育長の寺本恵子です。どうぞよろしくお願いします。そうしますと、早速ですが上定市長より御挨拶をいただきます。

○上定市長

今日は第２回の総合教育会議にお出かけいただき誠にありがとうございます。また、日頃から松江市の教育行政に対して、格別な御理解と御支援を賜っておりますこと、改めてお礼申し上げます。

今日はここ皆美が丘女子高校で開催とさせていただきました。この後私も講演がありましてちょっと気が気じゃなくておりますが、授業を私も実は初めて見させていただいて、その後実際に私から講演もしますが、生徒の皆さんから質問もいただけるということで期待をしているところです。

この中国四国において唯一の市立の女子高ということもそうですし、また、この4月に皆美が丘女子高校という新しい名前で学科の再編もしたうえで、リニューアルして新生開校しているといったところも含めて、今後この松江を担っていく、その生徒たちを送り出せる出発点となる学校だと思っています。

先ほどここに入って来た時に、石に「より広くより高く」と書いてありますよね。私実はよく使う言葉で、今日も講演の時に言ってしまうかもしれないですが、ちょっと言い方が違うんですが、「広い視野と高い視点をもって」という言葉が好きで結構使うんですよ。私も松江で生まれ育った時はそれができていたかというとその自信はなくてですね。ただ、いろいろな経験を積むうちになんとなく物事って一つの方向から見ていたらちょっと見誤ることがあるなというのに気付き、一緒に立ち止まって、ふっと上から客観的に見てみたらどんなに見えるのかなというのは、自分の中で大事にしているところではあるんです。それがまさに書いてあったので、生徒諸君が是非その名の通り広く高く、更にはチャレンジして、更に大きくなって、という循環が満たせればいいなと思っています。

今日ちょっと三つだけ皆美が丘がこういうふうになるといいなというのを自分の中で整理してきました。一つが、夢に向かう生徒一人一人を後押しできる皆美が丘になればいいなと。もう一つは、社会が必要とする人材を育て、自信をもって輩出する皆美が丘でありたいと。もう一つはそれのトータルでですが、選ばれる皆美が丘女子高校でありたいなというふうに私自身は思っています。今日皆様からも是非御意見をいただいて、私も生徒の皆さんからいろいろな質問もいただきながら、どういった学校になっていくのがいいのか、そして、子供たちがこの場を学びの場として巣立っていくときに、この貴重な3年間というのを子供たちが忘れずに、そして、友達と深い絆の中で切磋琢磨して未来を見据えていけるような、そういった人材を生み出していくためにはどうしたらいいかということを真剣に考えてまいりたいと思っています。委員の皆様からも御忌憚のない御意見、後程いただければと思いますので、何卒、よろしくお願いいたします。

○寺本副教育長

さて、本来ですとここで校長先生から学校の取り組み等お話しいただくところですが、まずお手元にお配りしています次第で御覧いただきますように、まずは授業視察をしていただきたいと思っています。授業時間の関係でそこをしっかり時間も取りたいと思っていますので、校長先生からの状況等々についてのお話は最後の意見交換のところでさせていただきたいと思います。

改めまして、この次第に沿ったところでスケジュールの確認です。この後教室の方に移動しまして学校の様子、授業の様子を御覧いただきたいと思っています。

本日見ていただきますのは、1 年生国際コミュニケーション科の英語の授業です。今お手元には一番下の方に本日の授業の授業計画略案も付けさせていただいていますので、また参考に見ていただければと思います。授業は、だいたい 20 分程度見ていただくようになるかなと思っています。それが終わりましてから、体育館での市長の講演です。1 年生が体育館に入ります。2、3 年生は感染症対策ということも含めてリモートでということで考えています。それが終わりましてから、だいたい 3 時半ぐらいを目途にですが意見交換。体育館の隣にクラブハウスがあります。そちらにまた移動していただきまして、校長先生の状況説明から意見交換に入りたいと思っています。夕方までの長い時間になりますが、最後までどうぞよろしくお願いします。

そうしますと早速ですが、移動をよろしくお願いします。

授業視察

・1 年 4 組国際コミュニケーション科の英語の授業（内容：「異文化理解」）

市長講演会

・演題「ふるさと松江の豊かな未来のために」

意見交換

〇寺本副教育長

そうしますと、意見交換に入りたいと思います。

まずは本日の御視察と、市長におかれましては、御講演をいただきありがとうございました。

それでは、ここからは意見交換ということでございますが、委員の皆様と併せまし

て、皆美が丘女子高校の先生方も同席をさせていただいております。出席者については、最初にお渡ししております席次表で紹介に替えさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、意見交換のはじめに、中村校長より女子高の魅力化ということで、育てたい生徒像や学校の取り組み等につきまして、パワーポイントを使いまして御説明をさせていただきます。

○中村校長

失礼いたします。前で失礼をさせていただきますので、御了承ください。

改めまして、本日は皆美が丘女子高校にようこそおいでいただきまして、ありがとうございました。本日御協議いただく内容が、本校の魅力化についてお話いただけるということで、大変感謝申し上げます。

また、市長におかれましては、先ほどの御講演、大変ありがとうございました。生徒の心にもきっと響いて、これから本校が育てていきたい生徒につながる御講演だったと、繰り返し申し上げますが、大変ありがとうございました。

それでは、私がいただいた時間が 10 分程度というように伺っておりますので、本校の取り組みについてお話を少しさせていただきます。

本校の学びについて、今年から「松江市立皆美が丘女子高等学校」に校名を変更いたしました。それから、併せてカリキュラムを大きく変更しています。魅力化に向かってのカリキュラムですけれども、キーワードが『学びのその先へ』でございます。

『学びのその先へ』ということですけれども、内容として、2 つの『その先へ』ということがございます。1 つ目が、「未来をつくる学びの創造」ということ。もう 1 つが、それにつながる「上級学校の学びの先取り」。この 2 つが本校の改革のキーワード、『学びのその先へ』につながる内容であるというように考えております。

はじめに、『学びのその先へ』の「未来をつくる学びの創造」ということについて、本校の取り組みを含めてお話をさせていただこうと思います。

まず、この間オープンハイスクールがあり、中学校 3 年生 134 名に来てもらっています。そこで中学校の皆さんに話をしたとき最初に「未来の自分は何をしていると思いますか」とお尋ねしました。2011 年に小学校に入学したというのは、今の高校 1 年生になります。この 65%が今はまだない職業に就くだろうといわれている。これは

教育の世界でよくいわれていることです。では、どういう仕事かというところで、これはリクルート社が発表しているのですが、これからあるだろうと予想されている仕事になります。

聞いたことのないような仕事ですけれども、確かに AI が発達すれば、あるいは拡張現実、ゲームのような AR で旅行するということもあるのかなというように思ったりしているのですけれども、中学生にはこういうお話を最初にさせていただきました。

なぜ将来のことを今考えているのだろうかということですが、これからの社会は、そこにありますけれども、予測がしにくい。どんどん世の中が変わっていく。災害も多い。いろいろなことがある中で、これが正しいと思っていることが本当に正しいかどうかは分からない。正しいかもしれない。正しくないかもしれない。正しいということ自体が分からない。そういう世界を私たちは生きていかなければいけないし、これからの子供たちは生きていくであろうと。

そうすると、そこで必要な力は、正解がないことに対して納得解をつくる。100%予言の的中する人は、予言を実行する人だという言葉がありますけれども、納得解をつくることであろうと。しかも、独りよがりではなくて、協働してつくっていく。そういう力を本校では育てたいというように考えているところです。

したがいまして、これからの学びに必要なこととして、1 つ目は「つながること」。人や社会や出来事と、自分自身がつながっていくこと。これは大事な力であるというように考えております。

2 つ目が「つなげること」。人と人をつなげるという役割が人にはあるのかもしれませんけれども、学びの世界でいえば知識と経験、あるいは既に知っているものとまだ知らないもの、そういうものを自分自身でつなげていく力、これは大変大事なことではないかというように考えています。

それから、3 つ目が「つくること」。つながって、つなげて、それを基にして新しいものをつくっていく。それは新しい価値であったり、これまでは価値だと思っていなかったものに価値を見出すことであるかもしれません。先ほど市長のお話で、自分がこれまで思ってもいなかったことが、外から光を当てたら違うものが見えてきたというお話をいただきました。新しい価値を付けるということ、そういうことがこれからの学びに必要だろうと考えています。

つながることにつながる力は気付くこと。それから、つなげることの力は考えるこ

と。それから、つくることの力は実際に行動してみる。この気付く、考える、行動する、これはこれからの学びに必要なことではないかというように考えています。

これを基にして、本校の学びの目指すこととして、1 つ目が「未来を創造し、自分自身の居場所や活躍の場所をつくっていく」、今あるものに自分が乗っかっていくことも大事だと思います。しかし、自分がどうしたら生かしていけるのか、自分はどのように生きていけば良いのかということを自分でつくっていく、そういう力を付けてやりたいなというふうに思っています。

それから、誰もが幸せになりたいと思っている。それは大切なことですが、自分が幸せになりたいと思うことが人の幸せにつながっていく。そういう社会をつくる人を育てていきたいというように願っています。

そして、本校に来る生徒は、非常にパワーがある生徒たちがたくさんいます。その潜在的なパワーをどんどん開いてやりたいという、そういう学びをつくっていきたい。それは新しい本校のカリキュラムのベースになっている考え方であるというように私自身は思っているところです。

これは学園祭の様子です。上のところ、スクリーンに映し出された芸人さんですけれども、それを見て生徒たちがとても喜んでいるという映像です。これはどういうことかといいますと、生徒会長が、「コロナで閉じていて、楽しいことがなかなかなかった」というようなことがあって、それで応募をしたのです。応募をして、それが当選して、なかなか直接来ていただくことができませんでしたが、こういう形で、これは全校生徒にサプライズです。これも誰かの幸せのために自分が考えて動いたということの表れではないかということで、私自身は非常にありがたく思っているところです。

カリキュラムの中で、それを実現していくのが、「まつえ学」であろうというように思っています。学びのフィールドは松江です。松江で出会う「人」や「もの」や「こと」や、昔の松江であったり、未来の松江であったり、そういうものの出会いを通して様々な体験をすることで、視野が広がって考えが深まる。そして、自分の幸せと人の幸せがどうつながっていくのかということを考えて、最終的には施策提言ができたらなということは、去年からずっといろいろなところで相談をさせていただいているところです。

実際にまつえ学はどのように勉強しているのか。今、熊野大社の映像が出ています。ここに行きました。それから、安部榮四郎記念館の紙すき体験も行かせてもらいまし

た。それから、ジオパークについて学校で講義をして、その後実際に桂島に行かせていただいて、船には乗れませんでしたけれども、散策をして、漂着ゴミを回収し、「やった」と達成感を感じてますけれども、こういう授業もしております。それから、中村茶舗の社長さんに講義をしていただいたり、小泉凡先生に講義をしていただいたりしています。

『学びのその先』というキーワードですけれども、SDGs の視点で、最初にお話をした気付き、考え、行動するという力をこれで培っていきたいというように考えているところです。

それから、『学びのその先』で先ほど 2 つキーワードをお示ししましたけれども、2 つ目が『上級学校の学びの先取り』ということです。既にキャリア教育の中で、例えば大学と連携をした講座をさせていただいています。

これは県内・県外問わず、大学の先生に来ていただいて、いろいろな分野でお話をいただいたところです。それはタブレット等を使いながら勉強していくという形です。実際の本校の生徒たちの進学の実績については、これが過去 3 年間の主な進路になります。4 年制大学から就職まで、幅広い進路へ生徒は進んでいます。

過去 3 年で、まずは地元の島根大学、それから島根県立大学、こういうところに進学する生徒たちが多くいます。特に県立大学さんには、いろいろな形で御協力をお願いしていて、先ほど上級学校の学びの先取りという話を申しましたけれども、連携をしながら、授業にも入っていただきながら学ぶというスタイルをつくっていきたいというように協議をしているところであります。

それから、松江市内の専門学校に進学していく生徒がたくさんおります。御覧いただくと分かると思いますけれども、医療系に進学をする生徒がたくさんおります。それから、保育の分野もたくさんおります。本校の生徒の進学をしていく分野が医療系、保育系、観光ビジネス系、もう 1 つは家政系、これが大変多い進路になっております。

それを踏まえまして、新しい普通科では、2 年生でコース選択をしますが、総合進学コース、これは進学を目指して大学共通テストを使った進学対応コースです。もう 1 つはキャリアデザインコース、これが先ほどお話をしましたけれども、生徒がこれまで進学をしていった先を踏まえた 4 つのコースをつくって、それぞれのコースで自分のキャリアを磨く・深めるということを大学や専門学校と連携して実施をするということ。これが来年度から実際に始まってまいります。

予想される進路の例はこのような形になろうかというように思っています。

それからもう 1 つ、国際コミュニケーション科、今年度からの募集になって、今日授業を見ていただきました 12 名、30 名のところ 12 名というところで、定員には満ちておりませんけれども、大変意欲のある生徒たちが集まってくれているかなというように思っているところです。

国際コミュニケーションについて考えるときに、国際という観点、英語で話すというだけの観点ではなくて、国際の観点を入れなければと担当の教員はよく申します。本当にそうだなと私自身も思っています。国際的な感覚を持って話ができるというところを育てていきたいというように思っています。

特色としては、いろいろ特化した授業がございますけれども、英語だけではなくて、中国語や韓国語も併せて勉強ができるようなカリキュラムもつくって魅力化に努めているところです。

実際に今日、授業を御覧いただきましたが本校は ALT が 2 人おります。松江市でなかなか人数が足らないところ、いろいろ御配慮いただいて、本校には手厚く配置していただいているのではないかと思っています。イングリッシュセミナーは松江市の ALT 全員、かなり集めていただいて、ここで特化した授業をしていただいております。

これは昨年度の様子ですけれども、少人数にたくさんの ALT さんに入っていただいて、これは劇をつくっているところです。それから、お二人の ALT に来ていただいているところ。

それから、研修旅行はシンガポールに行っていましたけれども、なかなかお金が高くて、台湾へというように思っております。コロナが明けたらと考えているところです。

今お話したような新しいカリキュラムを踏まえて、本校が目指す生徒像は、まずは自分で主体的に学ぶことができる生徒。それから、本校ではホスピタリティ精神ということをいいますけれども、おもてなしの心というのは、やはり自分も相手も大事にして、人のことを慮ることができるということで、これはやはり大事だなというように思っています。ここのところは是非育てていきたいと思っているところです。

それから、表現力。これはまだまだ足りないところもありますので、確かなコミュニケーション力を踏まえて、社会をより良くするために行動することができる生徒を本校の教育を踏まえて育てていきたいというように考えているところです。

少し長くなって申し訳ありませんでしたけれども、今取り組んでいること、それから取り組もうとしていること、そのベースになることについてお話をさせていただきました。御清聴いただき、ありがとうございました。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

校長より、学校の運営にあたっての想い等々もお話をさせていただいたところでございます。

授業や学校の様子なども含めまして、いろいろお感じになられたこと、また、疑問に思われたこと等もあるかと思います。最初に申し忘れておりましたけれども、終了予定を 17 時ごろというように思っております。時間をしっかりとりながら、いろいろな意見交換ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質問や御意見などを皆様方から頂戴したいと思いますが、まず、最初に市長からよろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

○上定市長

それでは、座ったままで失礼します。

ありがとうございました。まずは先ほど 1 年 4 組の授業を見させていただいた感想を少し申し上げておきます。

どうしても自分の高校時代と比べてしまうのですけれども、一番すごいなと思ったのは、皆さん恥ずかしがっていないですよね。英語を話すことに対する抵抗感というか、時代が違っていたり、1 年生でいらっしゃるので、要は学び始めたところでどういう感じなのかなと、環境が変わって、この 4 月に入学されて、しかも 1 期生としてどういう感じなのかなと思って眺めていたのですが、英語というよりはコミュニケーションの手段を自分のものにしようというような意欲に満ちていらっしゃる気がしました。それから少し表面的な見方かもしれませんが、楽しんでいるなというように思いました。ですから、あれだけ大人がたくさん見ている中でも、とてもイキイキと皆さんがお話になっているのが印象的でした。

それから、全然違う角度の話をさせていただくと、窓が空いていて、今、少し雑然としていますよね。風も通さなければいけないですし、隣のクラスの先生の授業の声

もよく聞こえていたのです。ただ、私は少なくとも英語の授業に限って、しかも、リスニングというか、スピーキングというか、コミュニケーションの授業に限っていえば、あれはすごく良いと思います。しかも、オンラインで少し音声が途絶えたりとか、そういうのも含めて。

実務において、当然ですけれども、ヘッドホンを付けてお互いが何を話しているかということはなりませんし、当然実務においてブロークンなイングリッシュになりますし、そして、今は知らないのですけれども、少なくとも私が何十年か前に TOEIC などを受けていたときは、TOEIC の問題集にわざと道路において会話している場面とか、要は「プー、プー」といっていたりとか、「ザー」とかいっていたりして、聞こえにくい場面などを想定した問題の設定がされているのです。

ですから、むしろ実務的に生きた英語をやり取りする上では、きれいな英語を先生が教科書を見てやるのではなくて、今日みたいに、「この人は誰だろう」というのが急に出てきて、「あなたは何をしている人ですか」から始まって、全然予想できない、ストーリーのない形で話が進んでいって、ここから先ほどの校長先生方の話にもいくのですけれども、想像力を培っていくような授業になると良いなと思います。

それは、今日の講演の中では触れなかったのですが、語学力は想像力というように書いているページがあるのです。それは私自身が感じたことなのですが、結局相手が何を考えているかというのを想像することはすごく重要だと思うのです。

想像するイマジネーションの先には、それをいかにつくるというか、想像したものを形にするというクリエイティビティという意味での創造力もあって、先ほど先生がおっしゃっていただいたのですけれども、つながること、つなげること、つくること、そしてその後に創造ということが 2 つ並べていただいていたと思います。

その学びというのが多分生徒たちにとってはすごく重要なことで、少し英語の話と絡めてしまいますと、相手がこのシチュエーションにおいて何を言いたいと思っているのかというのを感知するというか、センサーで「そうなのかな」というように自分が考えることがすごく重要だと私は思っているのです。

英語というのは結局語学力だと思いきや、相手が今何を話そうとしているのかなという想像力と全く同じだと私は思っていて、ですから、下手な英語でも、相手の目を見ながら言っていれば伝わることもありますし、何を言っているのかよく聞き取れないなと思っても、この人はこれを言いたいに違いないと思っていたら会話が成立した

りするのです。

それは英語というそもそもコミュニケーションの手段なのですけれども、その先に伝えたいものがあるわけで、そういう1つの学問にとても集約されている話だと思って、先ほどの校長先生の話をつなげて聞いていました。

そのような社会に対応していく力というか、私が習っていた英語というのは受験のための英語なのです。受験という目的を達成するための英語だったという意味では意味があったと思います。ですが、今、実務で求められているもの、これは英語だけの話ではないのですけれども、その力というのを養えるような学校になって、できれば楽しみながら自然と身に付くというのが理想だと思うのですが、そのような環境をこのこじんまりとしている、先ほどでいえば 12 人のクラスだからこそできるようなことも多分あると思うので、その辺りをできれば一人一人の目線に立って積み上げられる学校になると、とても良いのだろうなというように思いました。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

特に順番は決まっておりませんので、どうぞ。

○原田委員

失礼します。座ったままですみません。教育委員を4月からさせていただいております原田といいます。どうぞよろしくお願いします。

私は、まだ子供が中学2年生と小学校の4年生ですので、高校は未知の世界でして、今日初めて見させていただいて大変勉強になりました。ありがとうございます。

今日は英語の授業だったのですけれども、先日も玉湯学園に行かせていただきまして、そこでも英語の授業を見させていただきました。中学生の今やっている英語というのが、先ほどおっしゃられましたけれども、私の中学校時代とはまたレベルが違っていて、多分高校でやっていたぐらいのことを中学校で今やっているのではないかなと思いました。

それがあっての今の高校の授業なのではないかなというように感じましたので、一切日本語がなく、英語だけで進むという状況ですとか、今日もお話しされていた英会話も分かりやすく話してくださっていたと思うのですけれども、結構長文であったり、

難しい単語が出てきたりですとか、そういうものもしっかりみんなが聞いているという点で、だいぶレベルが上がっているんだなということを感じました。

先ほど市長もおっしゃられたのですけれども、やはり英語でお話をするという前提として、自分の意見を持っていることですとか、相手のことを知りたいと思う気持ちですとか、やはりそういう部分も大きいのではないかなと思って、ですから、国際的にいろいろ活躍しようと思ったりとか、英語を使いたいとか、外国語を使いたいと思ったときには、やはり国語が芯にあって、自分の中で国語がしっかりしていて、自分の考えを持っているというところがやはり大事になってくるのではないかなというように今日も感じました。

ですから、今日も自分のことを表現する授業だったので、大変そういうことが力になっていくのだろうなと思ったのですけれども、私もあの授業の後、どういうフォローが先生方から入ってくるのか、その授業の先の授業が見てみたいなというのはありました。

ありがとうございました。

〇塩川委員

失礼いたします。5 月から教育委員を拝命しております塩川と申します。よろしくお願いいたします。

今日は授業をありがとうございました。久しぶりに女子高に来させていただきました。新しく新設された国際コミュニケーション科での 12 人という少人数の授業で、あの短い間に彼女たちの個性が見え隠れして、大変授業の面白さといいますか、楽しさというのを思い出した気がしました。

今、定員が 30 名のところを 12 名ということなのですけれども、市長のお話にもあったように、逆に言うと、少人数で目がたくさん配られることや、少人数だからできることはたくさんあると思いますので、その辺りを 1 期生として大変重要な役割を持っているのではないかと思います。

今日の 12 名を見て、是非 1 年目、彼女たちも大変だと思うのですけれども、学校の狙いに即して 3 年間の学びで培ってもらって、それこそ松江に貢献できる生徒に育って欲しいと思います。

英語については、本当に我々の時代と違って、羨ましい限りでした。

○金津委員

お世話になります。私は教育委員3年目の金津と申します。今日は本当に貴重な機会をつくっていただきまして、ありがとうございました。

本当に英語の授業は、先ほどもありましたけれども、本当に羨ましいといいますか、私の学生時代からも隔世感がものすごくあるなという感じなのですけれども、言語教育というのは、やはりあのようなものが本来の姿なのだろうなと。本当に今思い出しても、英語の構文の英文法とか、私の時代も「何の役に立っているのだろう」みたいに今になると思うのですけれども、あと、ALTの先生も、仲間ということでしたがすばらしい方を捕まえておられるなと思って、本当に良いなと思って、絶対楽しい授業だなと、本当にすごく思いました。カラムーチョとか任天堂とか、結構そういうワードをいろいろ知っておられたので、尚更良かったのかなと思います。米子に2年間おられたということなのですけれども。

それから、いろいろ思ったことは、市長の講演のあとの質問が2つとも非常に感心したのですけれども、「自分たち未成年で何ができるか」ということであったり、交通の不便さとか、なかなか高校生で、私はそういう質問ができるだろうかというように非常に関心しました。今の若い子たちは、世界的にはZ世代といわれている世代で非常に社会意識・問題意識が高い世代と世界的に結構いわれていて、脱炭素のグレタさんなども確か同じ世代のはずなのですけれども。非常に感心して、この皆美が丘女子高が目指す学生像みたいなものを先ほどプレゼンしていただいたのですけれども、非常にリンクしてるな、きちんとそれに合っている学生が育っているなということを非常に感じて、本当にすばらしいなと思いました。

先ほどの校長先生のプレゼンもすごく良く、是非親子にプレゼンなどをされたら、「この学校に入りたい」とすごく思うのではないかなと思いました。

それから、質問です。事前に進学・就職の状況の資料をいただきました。令和2年度は、結局県外に出ていかれる方が 42 名、進学、就職、その他いろいろだと思うのですけれども、県内が 46 名と、少しだけ県内の数字が上なのですけれども、県外に出ていた方が、その後、就職などで戻ってきたりする割合といいますか、そういうものをもし把握されていたら教えていただければなと思います。

今日はいろいろとありがとうございました。

○中村校長

ご質問いただき、ありがとうございました。

県外・市外に出た生徒が帰ってくることの調査はしておりませんが、学校に卒業した後に帰ってきて、「卒業した後、今、こうしていますよ」とか、「今度、私はこういう方向で頑張ろうと思います」というようなことを話にきてくれる生徒はたくさんおります。そういう意味では、統計的な調査は今個人情報のこともあってなかなかできにくいのですが、一人一人の生徒で、学校にまだ気持ちがつながっている生徒は結構たくさんいるとすると、そういう生徒から今どうしているか、「市内に帰ってきた」とか、「県外に出たけれども、今は松江のここでやっているよ」という話は時々聞くので、県外に出て帰ってきて、また自分の暮らしをきちんと成り立たせようと思っている生徒はいるなと感じてはいます。

ただ、統計的な調査は今のところはございません。ご質問、ありがとうございました。

○藤原教育長

この4月から教育長をしております藤原と申します。どうぞよろしくお願いします。今日はとても良い授業を見せていただいて、ありがとうございました。

少し何点かお話したいのですが、1つは、私の経験則の中で、実際に社会に出て役立つ能力というのは、「相手のことを思いやることができる能力」と「コミュニケーション能力」、この2つだと思っています。

この2つを身に付けた子供というのは、どこに行ってもやっていける、社会に出ても当然やっていけるというように私は本当に思っていますので、このことをいかに身に付けさせていくのかというのが非常に大切なことであろうというように思っています。

その中で、教育の現場で何をするのかというのは、やはり体験を通じて子供たちにどういう刺激を与えるのかということだと思います。何に反応するかは、100人の子供がいれば100通りのものがあります。刺激を与えて、それに反応する、どの分野でどのように反応するかというのは、その子次第だと思いますが、反応する何かを押してあげるのが教育の役割だというように思っています。

次は、長い人生の中で、自分は今どこにいるのか、どこのポジションにいるのかというのを一緒に考えてあげることが教育現場で行っていただきたいことだというふうに思っています。当然そこには進学もあれば就職もあります。様々な分野でどういうことが行われているのかという長いスパンの、ここでいうところの「その先」というものを見せながら、自分が今どういう立ち位置にいるのかというのを子供たちにしっかり教えてあげていただきたいということです。

そこを踏まえて、では、何を目指すのかというのを、これもやはり一緒になって考えてあげることが一番大切なのではないかなというように思っています。

これをこの3年間でここの子供たちにしっかり体験させ、自ら考えさせ、併せて一緒に考えていくというところが大切なのかなと個人的には思っているということです。

それから、今日の英語の授業を見させていただいて、とても良い環境で勉強ができるなというように思っています。学校現場にALTさんが入られるようになってから、小学校などもそうですけれども、遊びから英語に入って、相手の国の文化などを知りながら親しんでいくという取り組みはとても良いと思うし、身に付くやり方なのですけれども、途中から受験の英語が入ってきて、先ほど来から出ていますけれども、せっかく英語が好きになっていたのに、受験の英語をやり始めて嫌いになるというパターンがあるように聞いていますので、その辺りをどのように上手に擦り合わせていくのかというのが課題かなというように思って見ていました。ただし、今日の生徒さんたちは、みんな楽しそうにやっていたので、とても良かったと思います。

それから、平成生まれの人たちは、生まれてこのかた日本経済が成長することを見たことがないので、とてもリアルなものの考え方をされますし、下手したらとてもネガティブな発想が多い。そういう中でも、本当に極めて現実的なことを子供のころから発言する子が多いというのは、本当にいろいろな場面で実感をしているところです。

その子たちに、夢を持って自分の将来のことを一生懸命になって考えてもらうというところがうまくできれば、この学校の存在意義が本当に出てくるし、ここで学んだことが子供たちにとって本当に有意義なものになっていくのではないかというように感じたところです。

以上です。

○寺本副教育長

ありがとうございました。是非いろいろなところのお話を深めていきたいと思いますが。

○上定市長

実利のある会にしたいと思っておりまして、皆さんが、皆美が丘が将来どうなっていくのが良いと思われているかという話を少しお聞きしたいです。

私も私なりに考えがあるので交えながらですけれども、すごく客観的に申し上げると、進学先のデータなどもいただきました。市内の県立普通科の3校については通学区が撤廃されたというような話などもあるのですけれども、例えば県立3高校と何が違うのか、要は、なぜ皆美が丘を選ぶのかという観点で考えていく必要はあると思うのです。生徒目線、中学3年生女子が「将来の進学、どこに行こうか」と考えるときに、「皆美が丘だな」というように思えるように誘導するという意味ではないのですけれども、自然に選択肢の中で、「自分は皆美が丘だな」と思えるような特色があるほうが良いとは思うのです。

ですけれども、今いただいている、例えば進学先の状況。これはすみません、本当に客観的にこれを見ただけなので、いろいろな考えはあると思うのですけれども、例えば国立大学に行った生徒の数というのが県内・県外にいて、これだけ見ると安定しているように見えるのですけれども、毎年によって結構ばらつきがあるなというようにも見えると思うのです。それがほかの、例えば私立大学は県外しかないのは仕方がないのですけれども、人数にしても結構ばらつきがあるというのを、良い意味でいえば、生徒のその時々のやりたいことを後押しする学校ともいえますし、逆にいうと、特徴があまりなくて、その時々に応じて、特色がないので、結果的に数字がぶれているという言い方もできると思うのです。

それはつまり、例えば中学校3年生が医療福祉に関心があって「まだ将来決めていないけれども、医療福祉をやろうと思ったら、そうしたら皆美が丘に行ったほうが良いのではないか」と主体的に思うのか、例えば、「私、語学が結構できるほうだわ。英語に限らず中国語・韓国語もやりたい。そうしたらやはり皆美が丘だな」というように主体的に自分が思うのも然りですし、あとは、例えばすごく精神的な話になってしまうのですけれども、先ほど藤原教育長もおっしゃっていたような、例えば「思いやりのある子供、自ら考える主体性のある子供に育てて欲しいから」という保護者目線

で、「あなた、皆美が丘に行きなさい」ということだってあるとは思うのです。

ですから、いずれにしても何らかの特色というか、何か引っかかるところがあって、皆美が丘に行くというのがあるべき姿で、言葉を選ばずに言えば、「県立高校は偏差値的に合わないから、だから行く」というのは、もちろん教育全体を考えたら受け皿は必ず必要なので、もちろん皆美が丘に限らず、そういう意味もあって然るべきだと思うのですが。松江市としても、受け入れる側としては、やはり目的意識を持って皆美が丘に行きたいというようなモチベーションを持って、その子供たち、保護者に「期待通りだった」思ってもらえるような3年間を過ごして欲しいなと思うのです。

そういう意味で、エッジの利いた皆美が丘の特色というのをどこに出していくかといったところを、校長先生に限らずなのですけれども、先生方それぞれの皆美が丘があって全然良いと思うのです。その思いを少し聞かせていただきたいなと思いました。

最後に少し付言させていただくと、先ほどの校長先生のプレゼンテーション、私もとても響きましたので、本当に出かけていただいてお話されると志望者数が増えるのではと思いましたので、また是非その機会を設けていただければと思います。

もう一言良いですか。例えば大学の名前も見ても、それこそ岡山大学に入った人がいますよね。島根大学・鳥取大学もそうですし、例えば京都女子大学、京都外国語大学、日本女子大学だって入っているではないですか。そこだけ捉えたら、短絡的な見方ですけれども、では、なぜ北・南・東に行かずに皆美が丘女子高に来て、岡山大学に行ったのかと。それが県立普通3校を出て岡山大学に行ったのと何が違うのかという話だったり、あるいは極端な話、スーパー進学校をつくるというのだってあり得るわけですよね。逆の発想ですけれども。

ですから、北高に行くのではなくて、ここに来て東大を目指すでも、私はできれば海外の大学を目指して欲しいのですけれども、そういうことだってあり得るわけですよね。ですから、それを時代時代に応じてだと思うのですけれども、少なくとも今の皆美が丘としてスイートスポットとはどこなのか、どういう生徒に来て欲しいのかと考えたときに、少なくともまずはアイデアを持っていないといけない。それに刺さる中学生が応募してくれると思うので、その辺り、自由な皆さんのアイデアをお聞きしたいなと思います。

○中村校長

ありがとうございます。今、そのことについても、魅力化とは何だろうということの内部での検討は始めているところです。いろいろそれぞれ思いがあると思うので、私もまだ聞いてないので聞いてみたいなと思うのですけれども、それも併せて、委員の皆さんがうちの学校を松江市の中でどのようになると良いと思ってらっしゃるのかとか、どのように育てていくと良いと思っていらっしゃるのかなというところも含めて、学校としてはそれも参考にさせていただきながら協議はしていきたいなと私自身は思っているところです。

私がざっくりイメージで言って申し訳ないのですけれども、選ばれる学校になりたいともちろん思っています。例えば進学に特化した学校が当然あるわけなので、そこに行かれないから来るではなくて、教職員と話をしている中で、うちはやはり動くこと、行動すること。単語1個を何回も書いてガツガツ勉強するというよりは、例えばボランティア活動をして、そこで学んだこと、あるいは今探究が始まっていますけれども、よその県立学校も探究が始まっていろいろなことをなさっていますけれども、うちなりの生徒の探究活動を通して、その成果をもって学んだことを次に生かしていくということが武器になるような学校でありたいなというように思っています。

ですから、そういうことについての手立ては何だろう、どうすると武器になるのか。あるいは、逆にそうは思っているけれども、では、うちの学校の強みというのは、どうしたら強みとして発信ができるのだろうかというところは、学校全体で考えていかなければいけないことだというようだと思っています。大きな括りでいうと、どちらかというと、成すことによって学ぶ、出会うことによって学ぶ、行動することによって学ぶ、学んだこと生かして道を開くという、そういう学校のスタンスかなと。

個人的な野心を申しますと、将来本校を卒業した生徒が、いろいろな意味で松江市に貢献することができると思うのですけれども、松江市の施策に直接関わるような立ち位置に立つような、そして皆さんにいろいろな願いを施策に本当に実際に生かしていけるような、そういう生徒が出ると良いなというようには思っています。

すごく大雑把な言い方をして申し訳ないです。それでは、順番に思いを語ってもらうということで。

○藤江教務主任

先ほど市長のお言葉にありましたけれども、非常に本校の生徒は伸び伸びとしておりまして、物怖じをしないようなところは非常に良いところだなと思います。

この部屋はダンス部の活動をする場なのですけれども、ダンスの練習とか、どういう踊りをするだとか、生徒たちが自分たちで決めてどんどん進めていくという、そういうところが一番良いところだなと思います。

生徒会活動でも、生徒会長の行動についてあったのですけれども、そういうことをどんどん自分で考えてやっていくというところ。私も結構たくさんいろいろな学校に勤めておりますが、一番この学校の生徒が伸び伸びしているなというところです。

そういうところを上手くアピールして、自分の本当に好きなことができる学校だなということをアピールしていけたらと思います。

以上です。

○磯田総務主任

失礼します。私は芸術の音楽と観光を主に担当させていただいております。

特に観光については分からないことばかりで、今こうして閉じているときですし、手探りのところもありますけれども、意外と話をしてみると、松江が国際文化観光都市であるということをあまり知らないとか、「それは何」、「どういうこと」とか、「では、松江でどういうところ、特に海外のどういうところから観光客の人が来ているのかな」とか、そういう視点、松江の良さとか、もちろん日本に対してもですけれども、やはり外国に対して、子供たちは特にアジア、韓国とかヨーロッパ、欧米とか、そういうところに興味を持っていますので、そういうところが観光についてどんなことをしているかとか、考えて調べながら授業とかに生かしていけて、少しずつでも外に発信していけたら良いなというように考えています。

芸術というところからも、やはり芸術は海外につながるところがありますので、そういった視点を持って、自分の授業の範疇ですけれども、そういったところから生徒たちを育てていって、少し外に目が向けられるようにということができたらなと思っています。

○奥村進路指導主事

完全に私見ということでお話をさせていただきます。

先ほど藤江先生も申しましたけれども、うちの学校で特色というものを出すのであれば、部活動というのが1つのキーワードになるのかなと思っています。

例えばダンス部というのがありますけれども、「ダンス部があるから皆美が丘女子高校に入ってきました」という生徒がかなりいるのです。それから、私はハンドボール部の顧問をしておりますけれども、ハンドについても、「ハンドボールがやりたいから皆美が丘に来ました」という子がいます。多分、そのことはすべての部活動でそういった生徒がいるのではないかなと思っています。

したがって、何年か前に改革委員会というのでしょうか、平成28年か29年のところで行われているものですけれども、その中にも女子サッカー部をつくるみたいなことが書いてあったのですが、それも1つの手だなとは思いながらも、実際には難しいだろうなとは思っています。ただ、1つの手としてはあるのかなというのが1つです。

それから、私も定年まであと何年もないのですけれども、そういった中で考えてみると、やはり我々の年代というのは旧態依然とした体制からなかなか抜け出せないというところがあって、今、進路指導主事をやっている関係で、少しいろいろ考えてみると、実は本校の教育課程というのは、特に今、普通科のキャリアデザインコースにつきましては、いわゆるペーパーテスト、一般選抜での入試にはほとんど対応できないと思います。時間数が少なすぎて。専門の教科に時間数を取られすぎて、対応できないと思っています。

そのことは総合進学コースでも、実はいろいろな単位を取るのだけれども、「実際には使っていないな」という、そういう単位結構あるのです。そういうところを考えると、なかなか一般選抜、私たちの感じでいうと、ペーパーテストによる入学試験にはなかなか対応できないだろうなと、そのような感覚でおります。

したがって、先ほど市長もおっしゃいましたけれども、やはり特に国公立大学のところに波が出てきているというのは、入学生の学力的な上下というのがかなりあるのだろうなと、そのようには思っています。自己分析の範疇は超えませんけれども。

そういった中で魅力化というのを考えていくときに、少し大変だなと。ある施設とか、設備とか、人員とか、そういったものの中でやっていかなければいけないのですけれども、その中でどういうことをやると一番効果的なのかなというのは今模索しているという、そういう状態であろうかと思います。

それから、全く話は変わるのですけれども、今、ICT機器の整備について、整備し

ていただきましてありがとうございました。これはすごく良いものではないかなと思っております。

ただ、そういったことは分かっていらっしゃると思うのですが、特定の教諭にすごく負担がかかるのです。本校もそうですし、例えば私自身、小学生と中学生の子供がおりますけれども、いろいろな小学校・中学校の話を聞くと、ある小学校ではインターネットを使って、例えば運動会であるとか、そういったものの配信をします。ある小学校は、そういった配信はしません。学校によって分かれるのです。そうすると、「この学校にはそういうのが使える人がいない」、「この学校にはいる」、そういう判断をしてしまうのですけれども、多分 99%正解だと思います。

そういうことで、結構ハード面のところというのは、整備していってもなかなか実際に使いこなせないというのが結構あって、当然我々もそういう勉強をしながら、そして、私は数学が専門なのですけれども、その数学の中では非常に便利なものなのです。特に立体であるとか、そういったもの。平面図形というのは黒板を使っていろいろチョークでやって、何となく分かってもらえるのですけれども、立体というのはだめなのです。下手な絵だと余計に生徒は分からなくなるので。「こう転がす」、「こうやる」みたいなそういう動きというのをやっていると、とても分からない。ですから、あのようなコンピューターを使って見せてやるというのはすごく良いものなので、すごく助かっています。

ただ、惜しむらくは、多分我々はコンピューターの性能の 3%も使っていないと思います。そのところが使えるようになるともっと良いのかなと、そのように思いますけれども。以上でございます。

○中田生徒指導主事

先ほど市長が申されました本校のエッジの利いた特色は何なのかという言葉が私もすごく気になっていまして、現在の私自身の考えでは模索中であると思っております。

本当に私の個人的な意見なのですが、3 つ考えていまして、1 つがやはり修学旅行。もう 1 つが、今年度 1 年生の副担で関わらせていただきましたまつえ学。それから部活動。私はこの 3 つではないかなと考えています。

先ほど校長がプレゼンの中で、修学旅行が金銭的な面もあり行き先を変えようと考えていまして、そこが生徒募集においての大きなポイントではないかなと思いますの

で、可能な限りのバックアップを松江市さんにお願いしたいなと思っています。在校生に聞いても、「修学旅行があるから女子高を選んだ」という生徒も何人かいますし、これからの中学校の3年生にとっても、きっと魅力になると思っています。

それから、まつえ学は、今、半年間関わらせていただいて、やはり松江の生徒でも全然知らなかったことや、違った見方などができると思いますので、今はなかなか体験活動やまつえ学以外のボランティア活動も、コロナのことがあってなかなか進められずにいますが、何かその辺りをコロナと上手く付き合いながら、是非松江を知って、松江を愛する生徒を育てていくことが大切ではないかなと考えています。

それから、私は体育教員ですので、やはり部活動を大切にしていきたいと考えています。男子がいないということでなのか、体育の授業で非常に激しく活動する女子生徒がたくさんいます。非常に良いことだと思いますので、そういうエネルギッシュな部分を、今、中学校とかも今後社会体育にという流れがあって、本当にどうなっていくのかというところですが、部活に一生懸命精を出して活動する、そういうエネルギーをぜひこの学校で育てていきたいなと個人的には考えています。

以上です。

○大谷国際科主任

失礼します。国際科の主任をしております大谷と申します。

本校の魅力化ということなのですけれども、1つはやはり国際コミュニケーション科ができたことで、そこを中学生にとって魅力的な科にしていく必要はあるのだろうなと私自身は考えております。

それについてなのですけれども、やはり国際的な視点を持てるような体験ができる学校であることということが1つと、今日授業を見ていただいておりますが、語学力の向上という、この2つは両輪で欠かせないものであると思っております。

国際的な視点については、体験的に学べる機会が多ければ多いほど良いのかなと思っておりまして、1つは海外研修がもちろん大きな行事として入っております。その海外研修も、やはり3年間の学びの中で、どういう目的で何を体験しに行くのかという明確な方針を学校で持つ必要もあるのだろうと思っています。

あと、これは現在協議中ですが、探究の時間を上手に使って、松江と海外のつながりというところから、生徒の視点を広げられるような学習ができれば良いなと思って

おります。

国際コミュニケーション科の生徒は、1年、2年、3年、それぞれスピーチコンテストにも出場するようにしておりますので、そのような探究的な学びを通して得た視点と、あとは英語の授業で培った英語力を上手く掛け合わせてアウトプットできるような機会も設けていきたいと思っております。

それから、先ほどから御指摘があります受験の英語については、なかなか難しい部分もあるのかなと思うのですけれども、どうしても無味乾燥になりがちなところですが、その点については私も英語科の教員ですので、難しい英文でも英語の文章は割と中身が面白いことが多いので、イグノーベル賞の話だったりとか、アンパンマンを例に出して、本当のヒーローとはどうあるべきかとか、内容的には面白いものが受験英語であってもたくさんありますので、内容に対してもしっかり反応させるというような授業を展開することで、読むこととか、英語を通して何かをすることの喜びとか、それに対して自分が反応できる喜びというようなものを体験させながら力を付けていきたいと思っております。

先ほど生徒部長から話もありましたように、女子しかいませんので、市長のお話にもありましたが、働く女性の比率が高いということもあります。女子だけしかいない学校で伸び伸びと言いたいことを言ったりとか、やりたいことをできる環境はすごく恵まれていると思いますので、その辺りも生かしながら、広い視点を持ちつつ、語学の力を付けて相手を納得させるというか、そういう発信力を付けていくことが国際コミュニケーション科の魅力の向上につながるのではないかなと思っております。

以上です。

○安達まつえ学コーディネーター

私は学校の魅力化ということで申し上げる立場ではないわけですけれども、今年からやっておりますまつえ学に関わって少し思うことがございます。

女子高の1つの魅力化としてまつえ学が今年から始まって、学校としては、これを何かアピールできる材料にしたいということだと思うのですけれども、やっている中身としてはまだまだといいますか、そこまで特別なことをやっているわけではありませんけれども、目指しているものというのは、先ほどから市長がおっしゃっているようなことにつながることだろうなというように思います。

先日、オープンハイスクールということで、中学3年生が女子高にやってまいりまして、体験授業の1つとして、まつえ学の授業をいたしました。23名が参加しましたけれども、その中でミニまつえ学ということで、この松江のまちの良さとか、あるいは課題とか、たった1時間でしたけれども考えてもらって、「それを解決するために、みんなはどういうことができると考えますか」というような、そういうことを授業の中で取り扱いました。

いろいろな市内の子供たちが来ていましたけれども、本当にたくさんの意見を述べ、自分の考えをしっかり述べてくれたなというように思っています。そういう授業が「楽しかったな」と、「これはなかなか良いな」と思ってくれれば良いなと思うのですけれども、松江市内にある県立普通科3校の学校も、当然松江を題材にした探究的な学習というのをやっていると思うのですけれども、それとは違う女子高のまつえ学というのをつくっていけたら良いなと。「私はまつえ学があるから女子高に行きたい」というような、そういうことができると良いなと思います。

ただ、これから考えていかなければいけないことがたくさんありますし、なかなか厳しいことだとは思いますが、校長が言うような方向に進めていければなというように考えております。

○寺本副教育長

ありがとうございました。先生方のいろいろな御意見もお聞かせいただいているところでございますが、委員の皆様方も思われるところをお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○原田委員

先ほどお話をいろいろ聞いて、新しくできた国際コミュニケーション科のポイントとかも見させてもらっているのですけれども、松江市のネットワークを生かして留学をサポートですとか、留学生等との交流授業の推進などと書いてあるのですけれども、具体的に今、これはもう何をするかというのは決まっているのでしょうか。もうされているのでしょうか。

○中村校長

具体的なことはまだ決まってはいないのですけれども、例えば松江市が今、中国の杭州とオンラインで交流をしています。杭州にはコロナがなかったときは行き来をずっとしていて、交換留学のような形をしていました。この松江市のネットワークを通じてさせていただいているところです。

これは今後の協議が必要だと思いますけれども、杭州との交流はうちの学校全体でやっていたことですけれども、国際コミュニケーション科に来ると、以前松江市がやっていたような、例えばラフカディオ・ハーンの故郷のアイルランドに行ったりとか、あのような形ができると、中学生さんも含めてできると良いのかなというようなことは思っています。具体的にどういう形でどうしたら良いかというようなことはこれからになると思います。

○原田委員

私も姉妹校提携といいますか、そういう学校があると良いなというのはすごく思っていて、やはり１回行って、帰ってきて、お手紙なり何なりはするかもしれないのですけれども、今、こういうインスタとかでもすぐつながってしまうような世界なので、せっかくならいろいろな外国のお友達をたくさんつくり、直接その子とやり取りでいろいろなことができて、いろいろな文化を吸収できるとか、そういうやり方も良いのではないかなというように思います。

継続的にどこかと毎回、「久しぶり」みたいな感じでやり取りができるような学校をつくって、そことやり取りをするとか、今までもされてきたと思うのですけれども、そういうのはやはり良いのではないかなと思いました。あとは地域のいろいろなボランティアもされていると思うのですけれども、地域との交流というのは、具体的に今、継続的にされているものというのはあるのでしょうか。

○中村校長

「四者の語らい」という地域との交流をしています。生徒部が中心にやってくれていますけれども、教員・保護者・生徒・地域の方に来ていただいて、1 つのテーマを基に四者で語らいの会をやって、地域の方の御意見や、例えば去年はコロナのこともありましたので、安全のことというようなことをテーマに、通学時の安全のことを駐在さんも一緒に入ってもらってお話していただいたり、みんなでそのことについて話

をするというところをみんなでシェアをするという、そういう会はつながりとして持っています。

○原田委員

そういう地域との交流も継続的なものが 1 回限りではなく継続的に、「困ったな」と思ったら「あの人がいるな」とか、今までつながってきた人たちと今後もつながっていけるような、そういうつながりがあると良いのではないかなというように思いました。

あと、先ほど市長の講演後の生徒からの質問に「私は何をしたら良いでしょう」というような質問があったのですけれども、やはりそう思うということ自体がすごいことだなと思って、高校生の時点で「何か自分にできることはないか」というように探すということがすごいなと思いました。そう思っている子に対して、情報をどのように与えてあげたら良いか。私も個人的に、今、市政はどうなっているのかとか、そういうことを調べに行こうと思ったら、何を見たら良いのだろうなどと思いながら、とりあえず市報を見ようなどと思うのですけれども、私、なかなか市報がすぐに見られない状況だったのでネットで見たいと思いまして。そうしたら今はアプリがあるのです。マチイロというアプリがあって、市報がすごく見やすくなっているのです。特に若い人たちは、紙の媒体よりもそういうインターネットの媒体のほうが手に入りやすいというのもあるので、例えばそういう情報を教えてあげるなど。また、そのマチイロというアプリはいろいろな項目がタブで分かれていて、自分が見たいのがすぐ見れるようになっていて、例えばパブリックコメントを募集しているというのも情報として出てくるのです。

ですから、そういうのを活用して、是非とも高校生の皆さんのパブリックコメントというのも良いのではないかなというようには思うのですけれども、今、市長も、「是非自分の意見を言ってください」とおっしゃってくださったのですけれども、その意見というのをどうやって言ったら良いのかというところまでフォローがあると良いのではないかなというように思いました。

以上です。

○塩川委員

失礼します。以前に私、中学校に在職しておりましたので、日頃から女子高と連携を取っていろいろなことをさせていただきましたけれども、私の経験からして、非常にもったいないなという気がしております。

それは何かというと、せっかく従来からいろいろな特色ある活動、AIDS のこととか、今のダンスの話もありましたけれども、そういう特色のあるしっかりした伝統を持っていらっしゃるのに、生徒さんも頑張っておられるのに、その魅力というのが中学生にあまり伝わっていないのではないかなと思います。

先ほどのオープンハイスクールとか、各中学校で行われる学校説明会とかありますけれども、それは概要であって、ほとんど生の情報が生徒には伝わっていない、非常にもったいない気がしておりました。

今、コロナ禍でいろいろな状況があると思うのですけれども、中 3 を対象にしてお話をされる学校説明会もありますけれども、やはり市立学校の強みを生かすためには、生徒自身が学校に出向いていろいろな魅力を伝えることが必要ではないかなと思います。非常にそれが強みであるし、受け入れる市立の中学校も同じ市立学校ですので受入れが可能ではないかなと思います。

実際、生の声を生徒から中学生に伝える。今の女子高のすばらしさというものを、生徒の力をもって伝えるというのが必要ではないかなと。そういう機会を是非つくっていただきたいと思います。

人に教えるとか、伝えるとかするためには非常にエネルギーを使いますけれども、もしそういう場があれば、生徒たちも一生懸命伝えようという、それが女子高の誇りとなり、自分の自信につながっていくのではないかと思います。是非市立学校の強みとして、そういう機会を今後持っていただいて欲しいなという、以前からそのように感じております。

それから、女子高の方向性としては、やはりグローバルな視点で行動をしているのが念頭に出ておりますので、ふるさと教育からグローバル教育、そういう方向で特色ある学校になって欲しいなと思っているところです。

○金津委員

私は先ほど市長からの「エッジの利いた誇れる特徴」という問いかけに対して、いろいろなお答えをいただいて非常に理解も深まりましたし、本当にすばらしい学校だ

なと感じました。

先ほど校長先生からも本当にすばらしい教育ビジョンも話していただいたので、私はそこで個人的に勝手に思ったのですけれども、校長先生から「野心」という話があって、野心というのはあまり表立って、心の内で燃やしているみたいなイメージがあるのですけれども、それを表に出して言っても良いのではないかと。「女性リーダーの輩出を目指します」というような。日本というのは女性経営者とかも非常に少ないですし、世界的にも企業の役員とかの女性の割合もまだまだ非常に少なくて、そういう意味でも日本全体でもそうですし、地方でもそうですし、今後の将来というのは非常に女性が左右するのではないかなと思いますので、この学校の意義は非常にあるのではないかなと思います。

そういう視点を持ったときに、女性リーダーの輩出みたいなのを大きく掲げても良いのではないかなと思いますし、あと、先ほど国際コミュニケーション科の先生のお話しをいただいたのですが、本当にすばらしい内容をお話しいただいて。それこそ市長の先ほどのお話もありましたけれども、日本の大学を飛び越えてスタンフォードでも、オックスフォードでも行くような女子学生が出てきたらすごく面白いのではないかなとか、いろいろ勝手に私なりに夢が膨らんで、そういうビジョンを立てても良いのではないかなと思いました。

ありがとうございます。

○藤原教育長

私からも、今のまつえ学というのを極めていくというのは、とても学校の特色になると思います。

もう 1 つは、それをきちんと人前で話せるようになるということ。要はプレゼンの能力、コミュニケーションの能力だと思いますが、まずは日本語でそれができる。それから英語でもできる。そういう生徒を育てるということが、この学校のすごい特色になっていくと私は思っております。

例えば北高の高校生と私は意見交換したことがあるのですけれども、1 年生で自分でフィールドワークをしながら松江の課題を見つける作業をされて、2 年生では自分が見つけたテーマをもってグルーピングをして、グループの中でどのテーマに絞るかという活動をされた上で、最終的に市に対する提案という形でまとめたものを、当時

は総合福祉センターで発表会があって、それを人前で発表する機会があったというように聞いています。私が具体的に聞いたチームは、子供たちが自分で学習をする場所が松江市内に欠けているということを受けて、どこかに自分たちが自由に学べる場所を確保するためにはどうしたら良いのかというところを提案された案件でしたけれども、とても良くまとまっていまして、私もいろいろ話を聞きながらアドバイスをしたのですけれども、そういう形で、やはり最終的に人前で話す、発表する、そういう機会をしっかり設けた上で勉強する。

先ほどあったように、例えばそれを英語でプレゼンできる、それを中学生たちに見せてあげれば、「女子高の生徒はすごい」という話に必ずなると思うので、そういったこともきちんと考えて取り組まれたら良いのではないかというように思います。

したがって、今の取り組みというのをしっかり拡充していただくことがこの学校の道筋を付けていくことになるのではないかというようには感じております。

以上です。

○上定市長

すいません、もう時間だと思うのですが、先生方からおっしゃっていただいたこと、かなり五月雨で思いつき的なのですけれども、私の感想だけお伝えします。

最初にダンス部の話をいただいたのですけれども、今、島根スサノオマジックが 3 勝 1 敗で大変良いところにいっていますけれども、踊っていらっしゃる方がアクアマジック。私も実はダンスは一度、スティックビルのところでやっていらっしゃったのを、私は太鼓を叩いていたのですけれども、近くで見させていただております。

それこそ実際にやっていらっしゃるかもしれませんけれども、中学生の皆さんに対してダンスを披露するだけでも相当変わってくる気がします。ちなみに私の娘は、中高一貫の女子高に行ったのですけれども、中学の説明会に行ったときに、ハンドベルを奏でているのがすごく耳に残って、ハンドベル部に入りました。そこに行きたかったから勉強したと言っても過言ではないかもしれません。

そのダンスを、要は大阪の富岡高校とかありますよね。バブリーダンスで一躍有名になった、芸能人になった方もいると。そこまでいかなくても、ほかにも例えばマーチングで有名な高校とか、特色あるところはたくさんありますよね。それだけに特化する必要はないのですけれども、せっかくダンス部があり、しかも、今から言う話は

実はダンスに限らないのですけれども、アクアマジックというのが近くにいるのです。それと何かコラボできないかという発想は私が持たなければいけないことなのですけれども、是非御提案いただきたいなと思ったのです。

何かというと、せっかく市立の高校でおかれているので、市が直轄している形になるので、地元のリソースを是非使っていただきたい。こちらからも提案をさせていただきたいのですけれども、アクアマジックと何か一緒に掛け算できませんかも含めてなのですけれども、地元の企業であったり、例えば進学先でありますけれども松江総合医療専門学校だったり、あるいは先ほど少しご説明しましたけれども、Ruby というもの、ICT 教育も非常に重要だったので。あとは例えば商工会議所とか、もう既にやっていらっしゃることがあるかもしれませんし、先ほど原田さんがおっしゃった地域との交流、この中にも含まれると思います。例えば企業と一緒になって何かできることがあるのではないかなというように思うので、そこの辺りは我々も中に入らせていただいてやらせていただく。

そこから無理やりつなげてしまうのですけれども、修学旅行なども県立高校にはない魅力であると。ただ、一方でお金も必要なのでと。校長先生から「行動する学校ボランティア」という話もあったと思います。全部がボランティアである必要もないので、有償で何かボランタリーなことをしてお金をもらって、それをプールしておいて海外旅行の修学旅行につなげるとか、何か循環するような形で、win-win というか、そういうつながりがひょっとしたら持てるのではないかなと。

先ほど申し上げた地元のリソースを使って、ここならではのものをつくることというのは、まつえ学に直結すると思うのです。松江の良いものを生かして勉強していくという。そして松江に対する施策提言というのもしていただけると思うので、そういう循環が生み出せると良いなと思いました。かつまつえ学については、以前にいただいた資料でも、市に対して施策提案を行うとなっていますよね。私が知らなくて申し訳ないのですけれども、藤原さん、これは私に対して施策提案をもらえるのですか。

○藤原教育長

最終的にはそうだと思っています。

○上定市長

分かりました。要は生徒の皆さんも、私が最終目標で良いかどうか自信はないのですが、実際に私が聞いて、良いものであれば施策に反映させますので、皆さんの前でそう言っても全く構いませんので。その出口をもって、もしモチベーションが高まるのであればそうしていただきたいと思いますし、まつえ学のカリキュラムの一番最初のときに呼んでいただいたら行きます。

ですから、要は一体なのですけれども、市役所を使ってもらって、地元の企業も我々が仲介しますので使ってもらって、そういうところがひょっとすると今の皆さん方の話を聞くとエッジになるんではないかなというように思ったのです。

私、今日のプレゼンテーションの最初のときに「地域で育てる」と言ったのですけれども、まさにそういうことなのではないかなと。1 個 1 個我々強いものであるわけではないので、海陽学園ではないですけれども、その一企業で学校をつくるのは無理なのですけれども、ただ、地域で一緒になって全体としてやっていけば、ひょっとしたらほかのところではつくり出せないものが、松江市立の学校だからこそできることがあるのではないかなというのを皆さんの前向きなお話を聞いてとても思いましたので、御検討いただければ、そしてこちらも検討しなくてはなと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。

○藤原教育長

校長先生、去年までと違うことは、こうやって提案をしてもらったら、市が一体となってバックアップするということです。皆さんそこの認識を持ってもらいたいということだと思います。

○上定市長

アクアマジックみたいな飛び抜けた提案もたまにすると思いますけれども、現実路線に合わせながら、少し工夫を凝らして、角度を変えたらできそうという感じの取り組みを増やしていければなと思います。

○中村校長

まつえ学について言うと、「施策提案を市長にできる」と入ってきた生徒が普通科の中の確実におります。それはそう書いていましたので。そういう意味では、そうやっ

て直接お話ができることが高校生にとっては、それこそエッジにつながるのだろうなというように思っておりますので、今いただいたいろいろな御提案、是非お願いさせていただくことたくさんあると思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○寺本副教育長

それでは、予定をしておりました時間が過ぎてまいりましたので、本日はこれで意見交換を終了にしたいと思います。

市長はじめ、委員の皆様方のいろいろな御指摘・御意見で、女子高も我々も非常に心強く、取り組みへの意欲がより高まってきたのではないかと思っております。

引き続きいろいろと研究しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。